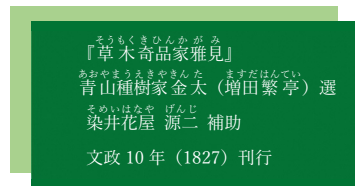
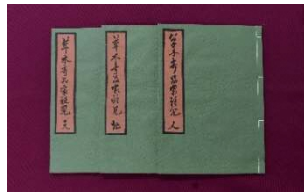


## 草木奇品家雅見第3弾×駒込図書館

「草木奇品家雅見」には、染井の植木屋の奇品も多く収められています。その技術が高く評価されていた証であり、奇品の流行に大きな役割を果たしたことが伺えます。今回は、奇品の流行の仕掛け人ともいえる水野忠暁をご紹介します。



### 草木奇品家雅見と水野忠暁

江戸時代、椿、つつじ、菊、朝顔など様々な植物の園芸ブームがおきました。花が美しい、大きいだけでは物足りず、他の人からは「変わっている」などといわれる植物（奇品）に価値を見出した人々が連（グループ）を作って楽しみました。

奇品家と呼ばれる人々も現れはじめましたが、初期の奇品家は本人による文献や資料が残っていないため実態を知ることは困難でした。

水野忠暁は、四谷表大番町に住む旗本でした。草木を愛する家庭に生まれ育った忠暁は、園芸、特に鉢植えに生きがいを見出し、奇品の道へと突き進んでいきました。

奇品の先駆者たちは、この世を去っていました。その薫陶を受けた忠暁は、次第に奇品の中心人物になって行きました。その全貌を本としてまとめることを画策し、三年かけて原稿をまとめました。

奇品の歴史、奇品家の伝記についての草稿は、青山の植木屋金太に渡し、出版の許可を与えました。これに写生を加え、全三巻（天・地・人）にまとめて出版したものが、「草木奇品家雅見」です。

その後、忠暁は、自分で集め、栽培した斑入り植物を、観察し、記録して画工に描かせ、斑入り植物の図鑑ともいえる「草木錦葉集」を出版しました。中でも最も好んだ植物が「万年青」でした。74種（図としては46種）が紹介されています。

「東都小不老草連」を結成し、小万年青ばかりを集めた展示会を開催しました。諸国の愛好家から出品を募り、一般の人たちにも公開し、江戸中で大きな評判になりました。「小万年青名寄」は展示会の出品物の中から忠暁が書いて描かせ、錦絵の技法をもって印刷刊行されました。

### 関連図書の紹介①

『江戸奇品図鑑』

浜崎大・著 幻冬舎ルネッサンス 2013年刊 【627.8ハ】

同著者の先に刊行された『江戸奇品解題』には、「変わり物」といわれた奇品とは何か、奇品家とよばれた愛好家による栽培技術など奇品の総論について語られています。

本書はその続編になり、当時の膨大な奇品の中から178種類を選び、『草木奇品家雅見』

『草木錦葉集』に収録されている図版を掲載し、詳しく図説しています。『江戸奇品解題』と共にご覧くださると奇品の知識が深まります。

### 関連図書の紹介②

『オモト（NHK 趣味の園芸 よくわかる栽培12か月）』

榎原八朗・著 NHK出版 2011年刊 【627.5サ】

一年中鮮やかな緑が続くオモトは「万年青」と書かれ、縁起の良い園芸植物として親しまれています。江戸時代後期に武家から庶民まで一大ブームとなった奇品。葉の一部に黄色、白色などが入った植物を斑入りとよび、オモトもこの斑入りが江戸の人々の熱狂的な人気を集めました。この本では、現代で栽培できるオモトの管理、育て方のコツなどを豊富な写真と共に説明しています。ガーデニングとして楽しんでみてはいかがでしょうか。

### 江戸奇品、園芸



・『江戸東京草花図鑑』

岩槻秀明・著 エクスナレッジ 2021年刊 470頁

・『よくわかる！江戸時代の暮らしー「川柳」と「浮世絵」で読み解くー』

福田智弘・著 辰巳出版 2018年刊 382.17

・『銀太捕物帳 お江戸のかぐや姫（文学の泉16）』

那須正幹・作 長野ヒデ子・絵 岩崎書店 2007年刊

【中央 ナス(児童)】【上池袋 ナ(児童)】【目白 ナ(児童)】